

令和 5 年度 相談支援実施状況（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月分）

事業所名：茅ヶ崎市社協障害者生活支援センター

## Ⅰ 相談利用者の状況

相談形態	電話	来所	訪問	その他	月別延べ件数計 (件)計 3,618
	2,485	387	313	433	

相談者	本人	家族・親戚	その他機関等	月別延べ件数計 (件)計 3,618
	1,094	69	1,833	

地 域	茅ヶ崎	寒川	その他	実人数 (人)計 204
	203	0	1	

障害種別	身体	知的	精神	発達	高次脳	その他	実人数 (人) 計 204
	70	56	67	6	1	4	

## Ⅱ 対応事業別の実績

事業項目		年間相談計 (件)
(1)市町村相談支援機能強化事業		1,831
(2)障害者相談支援事業		1,787
(内 訳) ※重複あり	(ア)福祉サービスの利用援助(情報提供、相談等)	1,706
	(イ)社会資源を活用するための支援	13
	(ウ)社会性活力を高めるための支援	16
	(エ)ピアカウンセリング	0
	(オ) 権利の擁護のために必要な援助	8
	(カ)専門機関の紹介	2
	(キ)上記以外の相談	42

### Ⅲ 相談の傾向や課題、その他の取り組み状況など

#### 【相談支援】

##### ① 相談の傾向や課題

##### 傾向)

- ・全体の延べ相談件数及び相談実人員は昨年より増加している。相談者の障害種別としては、知的障害、特に精神障害の相談が増加している。
- ・障害福祉サービス利用支援のほか、必要に応じて医療機関や施設等への同行支援、緊急対応の支援なども含め広く相談に対応した。
- ・親亡き後を見据えて障害支援区分 4 以上の中重度の方を対象とした施設やグループホームに入所/入居したものの、入所/入居後に課題が生じ、選択肢が少ない中でも退居を迫られるなど、本人や家族、関係機関のフォローが継続して必要なケースは多い。
- ・高齢の親が急に亡くなり、障害のある子どもが取り残され、支援者が見守りをしたり、医療機関の受診をしながら入所先を探すなど、ギリギリの状態で緊急対応を行わざるを得ないケースも増えている。
- ・引き続き他市からの転入によるサービス調整の相談もあるが、基幹型支援センターが出来たことでそのあたりの流れは整理されつつあるように見受けられる。
- ・緊急時の短期入所受け入れ先を心配される当事者、ご家族は多くいる。地域生活支援拠点の機能の充実も引き続き求められている。

##### 課題)

- ・上述の通り、施設入所やグループホーム入居、短期入所の利用を検討される相談は多いが、重度障害のある方、行動上の障害がある方、医療的ケアが必要な方、またグループホーム入居したものの、入院したところ退院後にホームに戻ることを拒否されるケースや、通所先から退所を促されるなど、利用者にとっての選択肢は少なく、支援の質の担保にも課題を感じている。
- ・知的障害がある方など、一人では医師とのやりとりが困難なケースについては通院等介助ではカバーできないため、止むを得ず相談員などの支援機関が通院同行の対応をしているケースや、ゴミ屋敷状態になってしまった居室を家事援助が入れるレベルまで支援機関が片付けを担わざるを得ないケース、緊急対応の際の施設などへの送迎を相談員が担うケースもある。制度のはざ間をどのようにして埋めていくかは引き続き課題である。
- ・精神障害がある方や、世帯全体で課題を抱えている方などで、相談員に対して心理療法的な関与を求めて頻回かつ長時間に渡って相談をしてくるなど、対応に苦慮するケースが増えており、どこまでそういったニーズに応えることができるのか課題である。
- ・薬物依存などの触法ケース等、障害分野以外のサポートが必要なケースも増えており、多問題ケースについての情報や課題の整理が必要である。
- ・施設、養護者ともに虐待が疑われるなど、課題が深刻かつ複雑化しているケースが年々増加している。虐待通報も含め、虐待に対する知識や対応についてもスキルアップをしていく必要がある。
- ・「有事に備えた繋がり」の維持」「問題発生時の対応」が主な関与の目的になりがちで、生活の質を高める支援や、前向きな自己実現の支援を求める利用者の期待に応えきれていない状況が生まれている。

##### ② その他の取り組みの状況など

相談活動を通じた課題の把握、社協の機能を活かした課題解決や提案的な取り組み等の視点で、試行的要素も含めた事業も展開している。

##### (1) 障害者の余暇支援・自立支援を目的としたイベント開催／保護者のレスパイト支援

- ・自炊をしてみたいと思っている障害者の方を対象に、「簡単・時間クッキング教室」を開催。地域のボランティアの協力を得て、スーパーでの買い出しから一緒に行い、作業工程が少なく、自宅でも簡単に作れるようなレシピを考案するなど工夫をした（参加者 9 名、付き添い 7 名、ボランティア 4 名）。
- ・余暇活動の場としてボランティアグループ小さな手が運営する「サロンよりみち」の開催を支援。年 11 回開催し、延べ 110 名が参加された。
- ・当事者の活動と事業所職員の取り組みをサポートする目的で自主製品を紹介するカタログ「ジョ

ブックラ chigasaki」を制作（4,500 部）、配布し、広報紙「社協ちがさき」7 月 1 日号でも周知した。このカタログを目にしたことをきっかけに、有料老人ホームでの自主製品販売や、小学校からのイベント協力の依頼があり、ショッピングセンターとのコラボ企画や、「茅ヶ崎共生社会フェス」への協力を行った。また、カタログのポスターを作成し、市役所本庁舎ふれあいプラザにて展示、カタログの配布を行った。

## (2)精神保健ボランティア推進委員会

- 市内の精神保健関係機関、行政等の参加で組織した推進委員会を設け、地域での精神障害の理解促進とボランティア育成を目指した検討を行っている。令和5年度は精神保健ボランティア推進委員会を 3 回開催し、精神保健関係機関の相互理解を目的とした見学会を開催した（10 月～11 月）。

＊専門援助相談を実施しているが、令和5年度の相談は 0 件であった。

理学療法相談／住宅改修相談（理学療法士・一級建築士）：計 0 件（理 0 / 住 0）

## 【その他】

- 第 5 回精神保健ボランティアパートⅡ修了生と、就労継続支援 B 型事業所が作成する「茅ヶ崎・寒川 精神保健関連施設マップ」の作成・配布にあたり印刷代の負担、情報提供、振分け作業等への支援を行った（1800 部作成）。